

講義名	社会調査の基礎			授業形態	
担当教員	栗田 真樹	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

社会科学は理論的な研究だけでなく、「現実」の社会を取り扱っているわけであるから、「実証的」な研究によって裏証され、その知見は「実践的」に役立つられなければならない。情報化社会と呼ばれる現代社会においては、情報を収集するためにさまざまな調査が行われているが、科学的に行われる調査は非常に少ない。この授業においては、実証的な研究方法である社会調査について、その意義と諸類型に関する基本的事項についてとりあげ、科学的な社会調査の基礎を修得することを目的とする。

到達目標

- ・基礎的な社会調査の考え方や諸方法を理解する。
- ・データ解析の基礎を修得する。
- ・現実の社会現象を観察し、自分なりの仮説を立てることができるようになる。
- ・データから知見を読み取ることができるようになる。

提出課題

平常期は、授業において配布する教材による学習に基づいて、毎回課題を提出する必要がある。特段の理由がない限り、これらをまとめて提出することはできない。授業への出席、課題の提出がない場合は平常点が低くなるので注意すること。課題提出はキャンバスクロス、Respon等のクリッカー、Microsoft Teams、Microsoft Formsを予定している。それぞれの設定や使用の詳細は授業で解説する。

学期の中間期にレポート試験、学期末に筆記試験を予定している。詳細は授業内で指示する。

なお、明らかなコピー＆ペーストによる課題提出は問与した全員を0点としたうえで、処分の対象とする場合があるので注意すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説する。

評価の基準

平常点（講義内課題）、中間レポート試験、期末試験により総合的に評価する。
 1. 授業中：講義内課題等 40%
 2. 中間期：レポート試験（理解度確認試験：記述式）20%
 3. 期末期：筆記試験（記述式）40%

履修にあたっての注意・助言他

「社会調査士」科目であるので「社会調査」に興味心があり、積極的に学習しようという意欲のある学生の履修を希望する。なお、毎回、授業内で課題提出、復習（復習シート）の提出を求める。課題の提出等に不備がある場合が多いので注意すること。課題、レポート等で他者の解答やホームページのコピーペーストが発覚した場合には然るべく対応する。

教科書

・『最新・社会調査へのアプローチ』 大谷信介ほか ミネルヴァ書房 2013年 2500円 9784623095247

参考図書

・なし。

その他

随時紹介、指示する。そのほか担当者作成の教材（PDF等）を配布する。

授業計画

- 1 社会調査の目的と社会調査士制度
- 2 社会調査の歴史
- 3 調査の倫理
- 4 さまざまな調査方法、統計的調査と事例研究方法
- 5 質問紙調査法1（調査の設計、調査の手順、仮説構成、質問紙の構成）
- 6 質問紙調査法2（調査の手順：質問項目の設計、質問文と回答の作成）
- 7 フィールドワーク
- 8 実験的方法、内容分析
- 9 国勢調査と官庁統計
- 10 学術調査、電話調査、マーケティング・リサーチ
- 11 社会調査データアーカイブ
- 12 量的データと質的データ
- 13 社会調査データ解析の基礎（単純集計）
- 14 社会調査データ解析の基礎2（二変数関係分析）
- 15 データ解析に基づく実践

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（2時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。毎回の予習・復習、中間レポート試験、定期試験の準備等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。具体的には、授業前に各回の授業内容について教科書の該当部分を読み、要点をまとめておいてください（2時間）、授業後に各回の授業内容を復習し、再度要点をまとめ、疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・社会の仕事や働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
 ・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
 以上の学部のディプロマポリシーを達成するため社会調査の基礎的・専門的知識を提供し、実践的に活用できる能力を修得します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教材はキャンバスクロスでもPDF等で配布する。
 毎回Respon等のクリッカーで課題の提出を求める。
 これらはスマートフォンで対応できることを基本とする。
 アプリとしてはMicrosoft Teams（ビデオ会議等）、Forms（質問紙回答等）とRespon等のクリッカー（出席・課題等のコミュニケーション）が利用できるように設定すること。これらについては授業で解説指示する。

実務経験の有無及び活用

各種社会調査の実務経験あり。担当者は「専門社会調査士」資格を保有している。

備考

課題の提出を「毎回」求める。まとめて学習、提出することはできない。これらが欠けている場合、「平常点」が低くなるので注意すること。